

大久保地域文化財巡り

大久保地域には、はるか旧石器・縄文・弥生・古墳時代をはじめとする数多くの遺跡があります。現在は、住居やたくさんの建造物によって、直接目にできないものもありますが、今回は、文化財に指定されているものを大久保領家辺りを中心に散策します。



大久保地域に文化的な影響を与えた古代の川「旧入間川」の痕跡。(作田排水路付近)

日時: 令和5年10月13日(金) 9:00~12:00
 コース: 大久保公民館~大久保領家方面
 主催: 大久保公民館

行程



- 9:00 大久保公民館
- 9:15 稲荷神社
- 9:35 大泉院(春日の一族墓他)
- 9:55 日枝社(大ケヤキ)
- 10:20 大久保東公民館
- 10:50 身形神社(セイコノヨシ他)
- 11:00 永福寺
- 11:20 薬師堂(ヒイラギ)
- 11:50 大久保公民館

稲荷神社



江戸時代には「正一位稲荷大明神」として、五関村の鎮守となり、東福寺によって管理されていました。

鴨川から農業用水を利用するため、この地区に五カ所(最大規模が千貫樋)の堰があったことから五関といわれました。

大泉院① 春日一族の墓(市指定文化財)



春日氏は中世以来、足利・上杉・岩槻太田・後北条氏の家臣として活躍し、江戸時代、中野田村 300 石を含む 2,750 石を与えられた旗本です。

以降、江戸時代を通じ春日氏が代々中野田村を治めました。

また、大泉院を開基したとされ、春日氏本家の墓が、大泉院に 4 基あります。

大泉院②

室町時代、武人の春日行光による財政援助によって建立された曹洞宗の寺社。開山は喜庵総悦。徳川家康より寺領五石の寄進を受け、その寄進状及び朱印状が浦和市時代に市指定文化財となっている。ほかに、ウスギモクセイが市指定天然記念物となっている。



大泉院三千仏経



大泉院古文書



天然記念物
ウスギモクセイ

日枝社 (大久保の大ケヤキ) (県指定文化財)

日枝社の参道脇にあり、その神木とされています。高さ 20 メートル、幹まわり 9.4 メートル、根まわり 15.3 メートル (県指定時)。樹幹の太さでは県内のケヤキで最大といわれている。



セイコノヨシ (身形神社) (市指定文化財)

セイコノヨシは、中国の西湖に生える葦」に由来します。葉が折れず、まっすぐ伸びます



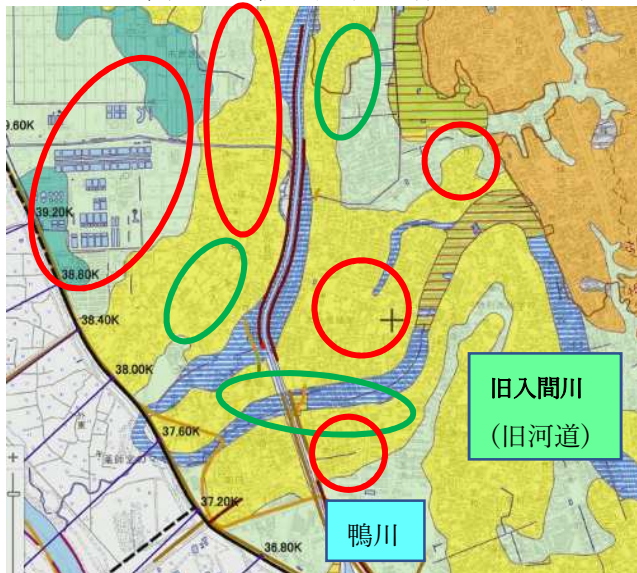
セイコノヨシは在原業平(平安時代の歌人)が挿した筆から生じたとの伝説があります。

業平の伊勢物語によると、三芳野辺りに住んでいた人に会うために出かけたという記述があります。当時、この辺りの道、羽根倉道を通ったのかもしれない。業平の名入りの道標は江戸時代のもの。

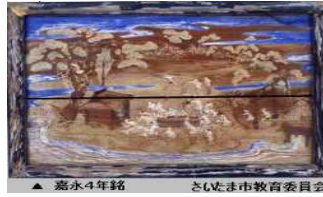
旧入間川はおよそ 1500 年前の河道といわれ、今でも排水路として、その痕跡を残しています。当時からその水辺の周辺では、水田が開かれ稲作地帯として栄えていました。その関連でこの地域には 30 基を超える古墳がつくられ、「大久保古墳群」と呼ばれています。

この流れは、さらに南下し、土合地域・別所・白幡方面へと続き、同じようにその周辺には、古墳が形成されています。(土合古墳群・白幡古墳等)

国土地理院地図(大久保付近旧河道)



雨乞い絵馬 (身形神社) (市指定文化財)



ここには、雨乞いに関する絵馬が3面伝わっています。

江戸期・明治期に奉納されたものには、水を張ったたらいで身を清める人の姿が描かれています。

「旧入間川」(青い斜線の川)の痕跡

旧河道(旧入間川)に沿ってたくさんの遺跡(赤い丸)や古墳(緑の丸)があることがわかります。

遺跡は図の左から順に

「大久保条里遺跡」

「宿宮前遺跡」「神田作田遺跡」

「大久保領家遺跡」「本村遺跡」です。

縄文(一部旧石器含む)・弥生・古墳時代のものです。

古墳(緑の丸)は、上から順に

「かな山古墳」「権現塚古墳」「白鍬塚本古墳」

中ほどに

「塚山古墳」「神明寺古墳」(これらの5基は現存し、

市指定文化財です。

下の緑の丸内には、古墳跡が点在します。

阿弥陀如来坐像(永福寺) (市指定文化財)

江戸時代初め頃。寄木造、漆箔、玉眼。像高 95.0 センチメートル。復古調。



薬師堂のヒイラギ (市指定文化財)



指定時(1971年)には、高さ 9m 幹回り 1.7m

根回り 4m。老木のヒイラギにはとげがなく、丸みを帯びています。